

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームひらき		
所在地	宇部市開1丁目740-1		
電話番号	0836-29-5050	事業所番号	3570200851
法人名	社会福祉法人 むべの里		

訪問調査日	平成 21 年 3 月 9 日	評価確定日	平成 21 年 5 月 8 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人 非常勤 4 人 (常勤換算 6,4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	月 1,000円 円
その他の費用	光熱水費 月額 11,000円			
	通信費 年額 2,000円			

(4) 利用者の概要 (3 月 9 日現在)

利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4	0		
	要介護 2	4	要介護 5	1		
	要介護 3	3	要支援 2			
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 むべの里診療所(内科)・西村内科クリニック(昼間のみ) 歯科 ほかお歯科(往診)
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

法人独自で介護支援専門員や介護福祉士養成研修などの研修を実施し、働きながら学んだり、資格取得ができ、勤務評価もあるので、職員は意欲的にいきいきと日々の介護に取り組んでおられます。家族には家族便りの他に、些細な出来事でも連絡して、利用者の状況を理解してもらうことで、家族がいつも心に留める意識づけの配慮や、家族、ホームとの関係づくりができています。

(特徴的な取組等)

ケアハウス、デイサービスセンター、障害者授産施設等の併設施設があり、ケアハウスから大正琴を弾きに来たり、新聞チラシでゴミ箱を折りに来たり、デイサービスの行事に参加して、日常的に社会交流ができています。喫茶店、パン屋、豆腐屋等があり、買い物をすることができて、利用者の変化や、楽しみ、潤いのある生活が出来るように支援をされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

職員会議で検討し、運営推進会議で報告して意見をもらい、改善に取り組みられています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員が自己評価を行い、会議で検討して、管理者が作成しています。評価の意義を理解しており、1年間の振り返りと整理の機会となっています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、地域代表、市職員、利用者全員、家族、ケアハウス職員などで開催し、意見交換をされています。全家族に参加を呼びかけ、利用者も一緒に話し合いに参加し、意見はサービスに活かしています。

(家族との連携状況)

毎月家族便り(一人ひとりの近況、金銭出納簿)、写真、領収書、ひらき便り等を送付し、写真は利用者の状況がよく伝わると喜ばれています。面会時や電話で些細なことでも報告し、家族との連携を深めています。

(地域との連携状況)

法人全体で自治会、家族会も協力して3,000枚のチラシを配布し、夏祭りや、鮎のつかみ取り、大正琴の発表会などの行事を行い、地元の人々と交流を図っています。散歩や外出、地域の公民館で開催される詩吟教室の発表会に参加されることもあります。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念を全員で検討し、地域密着型サービスとして「地域の中で、生き生き暮らせるホームを創る」というホーム独自の理念をつくり上げている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務室に掲示し、申し送り時に日勤者は「グループホームひらき介護理念」を、夜勤者は「グループホーム運営理念」を唱和し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。特に「介護理念」の言葉かけには注意している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや散歩で挨拶を交わしたり、法人の秋祭りにはチラシを3,000枚配布し、地域の人々や、家族が参加し、地元の人々と交流している。詩吟教室の発表会にも参加して、交流に努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、1年間の見直しの機会として捉え、職員で取り組んでいる。外部評価の結果は運営推進会議に報告し、協議しながら、運営に活かしている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、地域代表(相談員、地区の役員)、市職員、利用者全員、家族、ケアハウス職員等で開催し、今年度は法人グループホーム合同での行事について協議し、サービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市介護保険課や他係と相談や連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、担当者よりの家族便り(利用者の暮らしぶりや、金銭出納簿、領収書など)、ひらき便りでは行事予定、ホームの全般を報告し、行事写真を同封し、個々に合わせた報告をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時の声かけ、ひらきだよりの呼びかけなどで意見や不満、苦情が気軽に話せるような雰囲気作りに配慮すると共に、苦情相談窓口及び担当者、外部機関、第三者委員を明示している。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況により、柔軟な対応が出来るように勤務調整に努め、職員の急病等は管理者や非常勤で対応している。外出行事などは4名～5名の勤務調整をして対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人との相談で異動は最少限に抑える努力をし、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎年、法人独自で介護支援専門員、介護福祉士養成研修を実施し、職員に積極的に研修に参加する機会を提供し、働きながら資格取得やトレーニングしていくことを進めている。外部研修も勤務の一環として参加している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の勉強会や親睦会に参加し、交流を行っている。むべの里、5グループホーム・NPOグループホームでは運動会、園芸教室、運営推進会議で交流を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に自宅を訪問したり、ホームに来てもらい、お茶会をして場の雰囲気に馴染めるように工夫をしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日々の生活の場で一緒に過ごしながら、人生の先輩として、教え教えられるながら、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>生活歴や、日々の生活の中から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は月1回のケア会議、ひらき会議を職員全員で開催している。家族や関係者の意見やアイデアを介護計画に取り入れている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>定期的な見直しをしているが変化が生じた時は、その都度会議を開き、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院や退院の付き添い支援、個別の外出支援など、その時々々の要望に応じて柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の往診もあり、必要時には家族の協力も得て受診するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けた方針について、家族、医師、看護師、担当者で話し合い、必要時には契約書を交わすことになっている。マニュアルを作成し、必要時に備えて準備をしている。ホームでの看取り事例はない。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	毎日の申し送り時に「介護理念」を唱和し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応には気をつけている。記録等の個人情報にも注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の勤務体制で1日の生活はある程度決まっているが、起床、就寝、食事時間など一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	1人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをし、食事を楽しめるように支援している。昼食と夕食は配食を利用している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日15時～17時の間で、入浴剤などで変化をつけて入浴が楽しめるように支援をしている。失禁等で必要時には就寝前にも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人ひとりの生活歴や状況に合わせて、園芸、草取り、ゴミ出し、洗濯物干しなど活躍出来る場面づくりやぬり絵や習字など楽しみや気晴らしの支援をしている。特に詩吟教室は好評で地域の発表会にも参加している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	晴れた日は事業所前の広場の散歩、雨天時は2、3階の館内の散歩を日課とし、施設内の人々との立ち話を楽しんでいる。月1回は、必ず外出や外食に出かけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	研修や会議に参加し、職員は拘束を正しく理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、徘徊のある利用者が1名いるため、玄関のみ、内側から開けない施錠がされている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはつとや事故報告書を整備し、対策を検討し、一人ひとりの状況に応じた再発防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応について研修をし、月1回の会議で確認をしているが、応急手当等の訓練は定期的な実施ではない。糖尿病の利用者がいるため、看護師から、低血糖ショック対応についての指導を受けている。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人全体で年2回、防災訓練を実施し、地域や消防署の協力も得られる働きかけをしている。事業所前の広場が地域の避難場所になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬の情報を理解しており、薬は手渡して服用を確認している。服薬の処方や量、状況の変化などが生じた時は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの力量に応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃保管は職員が行っている。5名が毎月、訪問歯科診療を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量、水分量を記録し、食事の形態を変えたり、食事をマイペースで食べてもらい、必要量が摂取できるように支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、予防接種等予防対策を実施している。職員は、年2回健康診断を実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間には観葉植物や雑誌、行事の写真、習字などの作品、手づくりカレンダー、お雛様など生活感や季節感を感じさせる、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や仏壇、写真、作品等持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームひらき
所在地	〒755-0096 山口県宇部市開1丁目740-1
電話番号	0836-29-5050
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (2月1日現在)

ユニットの名称	グループホームひらき		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護1	1	要介護4
	要介護2	5	要介護5
	要介護3	3	要支援2
年齢構成	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 93 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	グループホーム職員(常勤4・非常勤4)と事前に各自が自己評価書をチェックして、話合いの場を作り検討し作成した。
評価確定日	平成 21 年 2 月 20 日

【サービスの特徴】

グループホームひらきは、近くに常盤公園があり、遠くに美祢や九州の山が一望出来る高台にあります。
 同じ敷地内は、むべの里ケアハウスひらき・障害者授産施設あゆみ・障害者グループホーム・豆腐処あい・あゆみのパン販売所・喫茶ゆうゆう庵等併設され、普段散歩や買い物、外食、見学などの楽しみがあります。各種の行事には、各事業所合同参加もあり、そのため交流も多くあります。各施設・地域の皆様との交流の中で、開かれたグループホームとして日々笑顔多く、心身の健康を見守りながら「人生の主演」として生き生きとした暮らしが出来ます事を目標に支援して参ります。

法人全体で

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	母体組織の理念にホーム独自（地域・利用者）の理念に作り変え、毎日申し送りの時に唱和実施している。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	申し送り時、日勤帯は介護理念を、夜勤帯は運営理念を唱和し、意識して取り組む様になっている。特に、声掛け時ことばに注意する事を強調する。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	日常その都度、実技や例を挙げて具体的に伝えながら、会議時にも把握実施出来るようにしている。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	時々、理事長、施設長にケアサービス等について報告・相談もある。些細な事も職員が気軽に相談しやすい場面多い。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会、運営推進会議、行事等参加で、地域の中で暮らすこと等、理解いただいているつもりが（地域・広報・写真掲載等で）家族の中でなかなか閉鎖的な考えを持たれている一部の家族がおられ理解いただけない部分がある。	○ もっと開放的なホームへと実施して行きたい。20年度はひらきだよりを地域に向け発信を実施したが、成果はまだ出ていない。
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	敷地内で併設されているケアハウス、DS、障害施設、レストラン他での理解と協力、馴染みの関係はできているが、広い地域での協力体制は不十分である。	○ 広く隣近所との付き合いを増やしていきたい。見学者が多くなった。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	年行事やお祭り、外出等で、地域の方のふれあいや詩吟教室の発表会参加で、地元の人々の交流することに努めている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域よりの見学、相談は、いつでも受け入れ可能で来園されやすい雰囲気作りに努めている。毎年、中学校職場体験学習を受け入れている。	体験学習された中学生が夏休み中ボランティアとして手伝っていただいた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で、何回か分けて取り組んでいる。運営推進会議で報告し、改善策にも相談してる。	○	改善に取り組んでいきたい。
10 (5)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	20年度は特に1グループホームでなく合同グループホームで、各行事に取り組みおおいに楽しんでいただいた。		
11 (6)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要時には相談して課題解決出来るようにしている。		生活保護者3名の体調・今後の住み替え等市へ行き来して相談等お願いしました。
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	活用する様な支援実施していない。		今後に向けて活用出来る時を踏まえ学ぶ機会あれば、勉強していきたい。
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者研修で学んだ、法人内での研修に参加し、職員全員で勉強の機会を持ち制度の理解を深めたい。		
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や退所時は、家族等に十分な説明し、また段階的に期間をもうけ、理解、納得して頂く様に努めている。		
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情あれば十分受け止めて、運営に反映させる様に努めている。		
16 (7)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族便りに心身の様子、預かり金報告、領収書、ひらき便り、その月の行事、全般の事を報告し、行事写真を同封し、利用者の様子が報告出来ることに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		第三者委員、外部機関を明示している。運営推進会議において、市、地域代表と家族で要望など話合ってもらった。
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		管理者会議、共有ホルダに意見や提案を聞く機会がある。
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		勤務調節で柔軟に支援している。
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		本部人事担当者との相談、意見をだしあっ手いる。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		法人内では、毎年ケアマネ・介護福祉士養成研修が実施されているので、対象職員に積極的に推進し勤務等、参加出来るよう配慮している。
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	○	現在入居利用者は、男性職員受け入れが困難ですが、以前の様に男性職員配置に取り組みたいです。
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		むべの里5グループホーム・NPOグループホームとの交流は、運動会・園芸教室・運営推進会議等で実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休憩時間・場所が定期的に確保は困難ですが、お互いにもっと一息出来る時間の配慮に努めたい。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		全職員で執務態度評価表を自己採点し考課者総合コメント、指導項目内容により、再確認実施、会議内で自分の長所さがしゲーム等実施。
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		契約前より本人・が抱えている不安や思いを家族や、関係者から情報を受けている。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		契約前より本人・家族等が抱えている不安や思いを話しあうようにしている。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		利用者より意見や希望を伺い、実施するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	各行事(家族会・運営推進会議・外出・外食)等、出来るだけ参加いただき、喜怒哀楽を共にしていると思っている。		家族の協力や来園が以前より多くなっている。
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	月1回、家族便りや行事の写真を送付し、ホームの生活の状況を理解していただける事に努めている。	○	身内の少ない利用者に対しても、もっと家族のふれ合いのような関係を作っていくたい。
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	月1回は必ず、支払いに訪問していただく様にしている。家族便り等で近況をお知らせしている。		家族の協力や来園が以前より多くなっている。来訪や、受診同行多くなった。
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の状態を把握し、席替え・日常のリクレーション・家事手伝い等で孤立しない様、生活出来る様に努めている。		職員の見守り等で、孤立しない様に取り組んでいる。
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状・ホーム便り・各行事の案内状を送付したり、相談などあれば、快く相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々人の思いや、希望を聞いて出来るだけ沿うようにしている。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・知人・関係の方々より、基本情報など得られた情報をその人らしい暮らしに活かせる事努める様にしている。		利用者の支援で情報が必要になった時は協力いただく事、伝えている。
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りやケース記録により、その時々状態を把握した上で生活のリズムに合わせて、一人ひとりに合った暮らしが送れる様に充分気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回、GH会議・ケアプラン会議実施で、職員全員で取り組み、家族や、関係者にもアドバイスいただく時もある。	○ 時間帯もあり、同席は難しいが、事前に話しを聞く機会もある。同席できる事を取り組みたい。
42 (17)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	新たな介護の変化が、生じた時は、その都度、会議を開いて臨機応変に対応出来る事を話合う様にしている。	
43	○ <u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録等の情報を共有し、ケアプランに生かしていると思っています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々に応じた、柔軟な支援を凶っている。	多種部署ある為、要望に応じて相談しやすい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ <u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各行事や、ひらき全体で、取り組む各教室に広く協力を支援している。	○ 地域の方々が来訪多くなっているが、利用者の方々がもっと地域へ出掛ける事が出来るとよい
46	○ <u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	常時開放し、見学者も多くなっている。職場体験学習で各中学生も引き受け好評です。実習後、ボランティアとして夏休み中お手伝いされました。	○ 地域に発信したひらき便りに一口メモとして、認知症の事を、毎月記事にしています。継続していきたい。
47	○ <u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問歯科、訪問耳鼻科、訪問美容室を意向や必要に応じて利用している。	口腔ケアは毎月実施(訪問歯科)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		家族も受診時の協力は5件得られている
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期における研修も実施していきたい。
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	毎日の申し送り時、介護理念唱和し、職員全員が意識的に充分気をつけている。個人情報の取扱いは充分気をつけている。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	訴えある時や、その方の思いは、時間を作り納得される様に傾聴・受容を努めている。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事一般は、毎日個人に合わせて、出来る力を発揮される様に支援している。	○ 個人差もあり、全員の方に出来る事を発揮する場は難しいが、少しでも協力していただいている。
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の勤務体制で1日のスケジュールがある程度決まっているが、就寝、起床・食事時間は、マイペースで過ごされている。日課を希望に沿っての支援にもっと努めたい。	○ 職員体制もあるが、もっと一人ひとり寄り添うよう支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容室、家族対応の買い物、外出など出来る様になっている。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食事の準備、盛り付け、片付けを一緒に行っている。お茶の時間、昼食は、一緒に楽しんでいる。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	毎日のお茶の時間は一人ひとりに好みの飲み物を伺い、一緒に準備、配膳して楽しんでいただいている。	○ 糖尿病の方にお菓子などに充分配慮している。今後お酒も楽しめる様に支援出来ると思う。
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンで、その都度、声掛けやトイレ誘導、介助を実施している。ほとんど、手洗いが、出来ず介助、声掛けしている。	布パンツ 2名, 紙パンツ・パット 7名

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○	失禁等で特別に就寝前入浴あったが、希望の時間帯は、職員の人数の関係上、入浴時は他の利用者の見守り不可能で、危険もあり現時点難しかった
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		安眠が難しい利用者は、希望時間に眠剤服用され安心して眠れるように工夫している。(2名服用)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○	ADL、認知度の低下や、職員体制で無理な場面も多い。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	1部持たれている方は5名、使用はされず、ほとんど家族より預かり金として、必要時支払い、月の収支決算と領収書を渡しています。
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している。	○	デパート巡りなど実施したいが、公用車の使用の件、ほとんどシルバーカーに車椅子、職員体制等現状は難しいと思われる
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 ○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	各行事には、必ず参加を呼び掛け、一緒に楽しんでいただける様にしている。		家族会・お祭り・合同運動会・クリスマス会・運営推進会議・食事会等
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27) ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	各研修・会議等で全職員は理解、把握し抑制や拘束のないケアに努めている。		
75 (28) ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊の強い利用者1名のため、玄関のみ内から開かない様になっている。(外からは自由に出入りできる)他は極力鍵をかけずにケアに努めている。	○	開放でき、自由に出入りできる体制に持って生きたい。
76 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各居室はすべて利用者を見守りしやすい位置で、昼夜を通しさりげなく、見守り、介助している。		
77 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせ、注意が必要な物品は管理し、危険防止に努めている。		
78 (29) ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的な防災訓練参加に、事故防止について事故報告書・ひやりハット報告書の記録を一緒に再確認して事故防止に努めている。	○	ベランダ側の非常口にスロープ設置完了で車椅子の利用者と訓練を実施。年2回の訓練を1～2回増やしたい
79 (30) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	介護研修や月1回の会議で確認しているが、もっと定期的な応急手当等の習得を図りたい。	○	訪問看護師に必要時にレジメに沿って指導ある。実技研修の習得を図りたい
80 ○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故発生の原因を探り、再発防止のための話し合いをする。しかし今後活かすまで職員間の意識付けが不十分である。	○	専門職交えて、発生防止の研修実施

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、防災訓練実施し、地域・消防署の協力を得ているが、夜間帯が一番難しいと思われる。	○	GH独自の訓練を定期的実施する。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者の変化があれば、必ず家族に報告、相談して一緒に対策等を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回のバイタルチェックや週1回の訪問看護師の健康チェック等異変の発見に努め、速やかに医師と相談し対応している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬確認は全て職員対応とし、薬の処方・量が変更されたり、状態変化見られる時は、医療機関と連携している。		薬の変更は、連絡帳に詳しく記入し、職員全員が共有している。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事に注意し、排便チェックや便秘薬服用で便秘予防に努めている。(毎日の散歩・水分摂取)		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後下膳後、口腔ケアできる体制にしている。5名は月1回訪問歯科の口腔ケアを実施中です。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や食事量、形態を変えたり水分量、栄養面に気をつける。約1・5時間以上かかる利用者にもマイペースで食べていただいている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染マニュアル作成と毎日散歩後や、トイレ後の手洗い、うがいの励行で、予防対策に努めている。	○	トイレ掃除は、必ず塩素系消毒剤を使用している。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	必ず塩素系洗剤での消毒・衛生管理に努め、食材使用も買いためしない工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	アプローチは、プランター等で四季の花を植え、玄関入口内に行事等の写真掲載で、出入りしやすく、また日常生活の様子が一目でわかっていたる様に工夫している。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロア-の空間スペースに観葉植物や雑誌、本、行事の写真に季節ごとの飾りで季節感を取り入れている。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルより、TV観ながら、おしゃべりや、玄関口ベンチを自由に利用され、思い思いに過ごしていただける工夫している。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの生活の場として、なじみの家具や椅子、仏具を配置され、居心地よく過ごされ様工夫されている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調整は、心地よい生活が出来る様に配慮している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	グループホーム全体がバリアフリーとなっている。浴室やトイレ、玄関外スロープに手すり等、居住環境が配慮されている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室に名前、トイレや浴室などに一目でわかりやすい表示をし、不安や混乱を招く要因に気をつけ、本人の状態に合わせた工夫に努めている。	○ 非常口としてベランダも利用する。
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダは、一緒に洗濯物干しに利用し、季節ごと、ティータイムや、そうめん流し、スイカ割りなど大いに活用している。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ④全くいない
108 職員は、生き生きと働いている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない